東大阪新聞　令和3年10月1日（金）

コロナ闘病日記

咳と熱で七転八倒

東大阪新聞社社長　小野一元裕

9月5日(日)夜、急にしんどくなり熱を測ると39・6度。51年間で初めて見る体温計の数字。新型コロナウイルスに感染した。味覚も嗅覚もあるが、とにかくしんどい。

妻に頼み、急いで長尾和宏医師へ電話する。

「コロナです。明日の11時に夫婦で来てください。奥さんも感染しています」と長尾医師。

熱に浮かされながら考える。1週間前の8月29日(日)に取材した相手から、9月1日CR検査で陽性判定が出ました」というメールがあったが、私は濃厚接触者ではないということだった。なんともないので、「お大事になさってください」と返事した。

考えてみると、取材に同行した妻は翌日から喉の不調を訴えていた。まさか感染しているとは思わなかった。

6日(月)11時に長尾クリニック(尼崎市昭和通7―242)へ妻の運転で行く。駐車場で待っていると、長尾医師が窓越しに問診。PCR検査をすると、2人とも陽性。順番に胸のCTを撮ると、肺炎に。完全にコロナ感染だ。イベルメクチン治療をすることに。私は5錠を3日分、妻は4錠を3日分もらって帰る。

妻は翌日、イベルメクチンを2回飲んだ頃には良くなっていた。ところが私は一向に良くならない。妻が長尾医師と夜通しショートメールと電話でやり取りし、入院した方がいいと言われる。イベルメクチンはほとんどの人に効くが、身長166センチ・体重96キロの体には脂肪に吸収されてしまい効かない(後に、長尾医師から5倍飲む必要があったと聞かされる)。

長尾医師が「メタボなので、入院の必要がある」と強く指示してくれたおかげで、八尾市保健所が入院手続きを速やかにする。それでも、すぐには入院できなかった。7日(火)夜、救急車を呼んだが、酸素濃度が95パーセント以上あったので、そのまま救急車は帰っていった。

8日(水)朝に八尾市保健所から電話があり、ようやく入院できることに。12時、八尾市立病院西8階856号室に入院。検査後、24時間点滴と抗体カクテル療法を受ける。24時間点滴は3日間に及び、抗体カクテルは4回、計8本。

9日(木)と10日(金)は咳と熱で七転八倒。熱があるから眠りたいが、横になると咳が出て寝られない。運ばれてくる食事は一切受け付けない。多くの人から励ましのメールをもらう。教え子善幡あず香さんからのメール「なんとしても生きてください」が胸に刺さり、最後の力を振り絞り耐えた。

11日(土)東大阪新聞9月15日号のゲラ刷りを妻に持ってきてもらい、校正する。妻は1階で看護師に渡し、看護師が私に。病室には家族でも入れない。考えることができるように。

治療はチーム制で、朝・昼・夜と医師も看護師も交代する。施設で暮らす里子の気持ちが分かった。スタッフが交代制だと、誰に頼っていいのか分からず心が不安定になる。

仕事をしたせいか体に力が入るようになり、この日の晩ご飯から食べることができるように。ゲラ刷りと一緒に御供(お祈りしたお米)を受け取り、すぐにいただいたのもよかった。恩師の澤井義則天理大学名誉教授がきてくれたもので、郵送してくれた。ありがたい。

12日(日)すべての点滴が終了ということで、夜に右手の甲に刺してあった針を抜く。

13日(月)朝、入院後初めてシャワーを浴びる。天国気分。ようやくいろいろなことを考えることができるように。意識朦朧とするなか校正し、修正を写メールで株式会社新聞印刷(大阪市天王寺区東高津町5―17)へ送る。本来なら15日号は4面建てだが、2面建てに変更。

仕事をしたせいか体に力が入るようになり、この日の晩ご飯から食べることができるように。ゲラ刷りと一緒に御供(お祈りしたお米)を受け取り、すぐにいただいたのもよかった。恩師の澤井義則天理大学名誉教授がきてくれたもので、郵送してくれた。ありがたい。

12日(日)すべての点滴が終了ということで、夜に右手の甲に刺してあった針を抜く。

13日(月)朝、入院後初めてシャワーを浴びる。天国気分。ようやくいろいろなことを説を読んだり、HuluやNetflixで映画を見たりするように。小説は大島真寿美著「渦」(文春文庫)、映画は「三島由紀夫vs東大全共闘50年目の真実」が印象に残った。

15日(水)夜、普通食から脂質異常症食へ。ご飯は200グラムから190グラムに。おかずも少なくなった。

16日(木)朝、2回目のシャワー。気分爽快。

17日(金)は熱が上がらないよう気をつけた。7時20分、10時30分、17時50分の検温時間は特に安静にしていた。熱が出ると、退院できない。

18日(土)10時退院。鉄の扉が開き、閉鎖病棟を後にした。妻が車で迎えにきてくれ、帰宅後ソファーで安静に。自宅で寛ぐ当たり前のことに改めて感謝する。

後遺症で体がだるく、トイレが近い。19日(日)～21日(火)は家でゴロゴロする。

22日(水)11時30分、妻の運転で長尾クリニックへ。夫婦で診察を受け、薬をもらう。

長尾医師は真剣な眼差しで念を押した。

長尾クリニックを出た後、株式会社新聞印刷へ寄り、東大阪新聞10月1日号の割り付けを渡す。

23日(木)朝、初めて爽快な気分で目覚める。体のだるさも取れたので、終日原稿書きに打ち込む。

最後になるが、長尾和宏医師はじめ医師、看護師の手厚い治療に心から感謝している。また、家族、恩師、教え子、社員、友人、知人の励ましが心の支えとなった。深くお礼申し上げる。

コロナの後遺症で悩んでいる人が多いという。私はまだマシだ。

「お2人は素晴らしい免疫を獲得したので、今すぐにワクチン摂取することはやめてください。今ワクチンを打つと、体の中が無茶苦茶になり、大変なことになります。打つなら11月以降、できれば1回だけにしてください」